

# 脳卒中にかかわる手術について

医療法人社団 高翔会 北星記念病院

## 副院長 高橋 明 脳神経外科医師による脳卒中の話 vol.1

平成31年1月から北星記念病院へ勤務することになりました高橋です、よろしくお願いたします。  
今までは札幌白石記念病院からの派遣で当院には来ていましたが、この度常勤医師として勤務いたします。定期的に皆さんへ脳神経外科に関わる医療の情報をお知らせしたいと思います。当院の広報誌「ほくほくねっと」と併せて是非ご覧ください。



### 副院長 高橋 明

札幌医科大学(昭和63年卒)  
日本脳血管内治療学会専門医  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳卒中学会専門医

## 脳卒中にかかわる手術について

今回は脳卒中にかかわる手術についてご紹介します。脳は繊細で弱い臓器であり、手術の多くは手術用顕微鏡を使用しています。通常の手術では完全無剃毛(髪の毛を切らずに)手術を行います。最近では脳血管内手術(頭を切らずカテーテルという管を使用する)などを実施しています。

また脳神経疾患は死亡率も高く、脳は更に一度損傷すると再生せず、重大な後遺症につながります。脳神経外科では患者さんの救命率向上と後遺症の軽減のため、可能な限り発症早期に手術治療を行います。

### 破裂脳動脈瘤(くも膜下出血)

脳動脈瘤が破裂すると根治治療が行われなければ再出血などにより死亡します。発症した場合は速やかに救急車による病院への搬送と、検査を行い破裂脳動脈瘤に対する開頭クリッピング術や脳血管内手術を行います。

### 未破裂脳動脈瘤

脳動脈瘤が破裂するとくも膜下出血となりますが、破裂を防ぐための手術が未破裂脳動脈瘤に対する手術治療です。未破裂脳動脈瘤の破裂する率は大きさにもよりますが1年間あたり1%

程度と言われています。破裂する率は低いのですが、一旦破裂すると40～50%の方が死亡します。手術は脳動脈瘤の大きさ、患者さんの年齢などを考慮して行います。以下は脳動脈瘤の画像です。



### 脳梗塞

手術の対象となる脳梗塞は、脳の太い血管が狭窄(狭く)なったり、閉塞(閉じる)した場合には行います。手術の方法は血管のバイパス術、頸動脈血栓内膜剥離術、経皮的血管拡張術(脳血管内手術)などがあります。

頸動脈血栓内膜剥離術は患者さんの負担が大きいため、最近では血管内手術による経皮的血管拡張術が増えて

います。

### 脳血管内手術

脳血管内手術は足の付け根の血管からカテーテルという特殊な管を入れ、脳の病気を治療します。患者さんの負担は外科治療に比べ軽く、この治療の方法が増えていきます。対象疾患は破裂脳動脈瘤(くも膜下出血)、未破裂脳動脈瘤、脳血管奇形、頸動脈狭窄症です。これらの疾患がすべてに脳血管内手術が可能なのではありません。画像やその他検査の結果によって、開頭術と脳血管内手術を選択します。

### おわりに

脳卒中の治療は時間との戦いです。脳卒中を発症すると身体に色々な症状が現れます(下記「脳卒中の初期症状」参照)。患者さん本人だけではなく、周りのご家族みなさんと脳卒中の兆候を知り、できるだけ早くに当院など脳卒中の専門病院へ受診してください。

## 脳卒中の初期症状 脳卒中は以下の症状が突然起きます すぐに受診を

- ◆ 片方の手足・顔半分の麻痺・しびれ(手足のみ、顔のみの場合もあります)
- ◆ ロレツが回らない、言葉が出ない、他人の言うことが理解できない
- ◆ 立てない、歩けない、フラフラする
- ◆ 片方の目が見えない、物が二つに見える、視野の半分が欠ける
- ◆ 経験したことのない激しい頭痛

医療法人社団 高翔会 北星記念病院



〒090-0837

北見市中央三輪2丁目302-1

電話 (0157)51-1234